

# 6次産業化で経営の多角化を推進中 ～おにぎり屋でもトヨタ式カイゼンを実施～

弥富市 八木淳子さん（有限会社鍋八農産）

水田作、加工・販売

【平成31年3月26日掲載】

弥富市で県内屈指の大規模水田作を営む有限会社鍋八農産（以下、「鍋八農産」という。）の八木淳子さんをご紹介します。淳子さんは4人の子育てをしながら、従業員14名の鍋八農産の経理をこなし、さらに加工・販売部門である「おにぎり商店きはち」の責任者を務めています。

## 「おにぎり商店きはち」のオープン！

「おにぎり商店きはち」は平成27年10月に近鉄弥富駅前オープンしました。鍋八農産の代表で夫の輝治さんがやろうと言ったことがきっかけでしたが、淳子さんは当初あまり前向きではありませんでした。開店の検討を始めたころ、4人目の子供は小学校4年生で、まだまだ気が抜けない時期でした。また、経理の実績はあるものの、淳子さん自身が責任者として人を使う仕事をしたことはなかったことから不安がありました。それでも、鍋八農産の米のファンを増やしたいという輝治さんの熱意を受け止め、開店を決意、淳子さんは責任者となりました。



八木淳子さん

## 運営が軌道に乗るまで

パート5人とともにオープンしたものの、日々のおにぎりの製造・販売、食材の調達、パートの労務管理など1年目は苦労の連続でした。人に任せて良いかどうかもわからず、すべてを自分の責任でしなければならぬと気負ってしまい、疲れはたと振り返ります。しかし、パートと積極的にコミュニケーションをとり、2年目には、淳子さんは任せられる部分が見極められるようになってきて、パート側もそれぞれ責任を自覚して働いてくれるようになりました。

現在は、パート同士で急な休みにも連絡を取り合い、人員が不足しないように調整ができるなど、各自が店の運営を考えて動いてくれています。



「おにぎり商店きはち」の外観。  
注文してからにぎってくれる。

## 店をカイゼン！

鍋八農産は、トヨタ自動車（株）の「豊作計画」※の開発に携わり、ICT管理とカイゼン活動により経営を伸ばしたことで有名です。そこで「おにぎり商店きはち」でも、2年目に、水田

作部門と同じようにトヨタ自動車(株)の社員から店のカイゼン指導を受けました。特に大きな成果が出たのは、食材の在庫管理の方法です。次の発注時期を逸しないよう管理できる方法や食材の賞味期限を把握できる方法などを、パート全員とともに指導を受け、指導内容を店に合った方法にカスタマイズしていきました。この活動により、急遽食材を買いに行くといった無駄は一切なくなると言います。

さらに3年目の平成30年の春には、「おにぎり商店きはち」に初めて正社員が入りました。若い社員と熟練したパートの意思疎通を円滑にするため、月に1回ミーティングを始めました。ミーティングでは、改善点の提案や反省点の共有、新しい商品の開発などに取り組んでいます。「それぞれ個性を尊重して責任を持って働ける人たちだけ、さらに磨きがかかってきた」とうれしそうに話してくれました。

※「豊作計画」：トヨタ自動車(株)が開発した農業者向けの農業ICT管理ツール。農業クラウドと改善支援を合わせたサービスとして提供している。

## 米ぬかを使用した化粧品を開発

平成29年、米ぬかを使った化粧品の販売を始めました。独身時代にエステティシヤンの仕事をしていて、以前から美容に興味があり、米ぬかが活用できるかと思っていました。さらに、やはりこのときも夫の輝治さんの面白いからやってみようの言葉から、輝治さんの広い人脈を活用して、化粧品会社を紹介してもらいました。商品開発にあたっては、淳子さんの商品イメージに合うよう、米ぬかや米ぬかエキスの配合量などの要望を伝えて、いくつも試作を繰り返しました。

米やおにぎりといった食べ物と異なり、化粧品は販路の開拓が難しく、鍋八農産の営業担当の社員が美容関連用品の展示会に参加するなど現在販路を模索中とのことです。「小売店に並べてもらうには何が必要なのか、一つ一つ勉強している状況。日々学ぶことばかりです。」と、大変さ以上に楽しさが伝わってきました。



化粧品は販路拡大中。  
生産者が開発した化粧品は珍しいとのこと。

## 高い行動力を地域貢献に活かす

淳子さんは、平成28年に名古屋ウィメンズマラソンに参加しようと急に思い立ち、以来3回連続で42.195kmを完走しました。地域を牽引する輝治さんに負けない行動力を持っている周囲も納得する出来事でした。今のお二人の夢は、地元の弥富市に、各地から人が集まるような場を作って、地域に貢献すること。鍋八農産のお米のファンを増やしたいという思いだけでなく、この地域が賑わうようになればと期待しての夢だそうです。お二人の行動力があれば、きっと実現することと思います。



多角化する経営を示したパンフレット  
水田作部門と加工・販売部門で発展中

執筆：農業経営課  
取材協力：海部農林水産事務所農業改良普及課